

②見える化・混載による輸配送効率化

項目	内容
取組内容	輸配送効率向上に向けて 架装・積荷情報可視化に必要な情報の標準化と混載の運用モデル検証を実施
取組意義	輸配送効率向上及び総走行距離の低減によるエネルギー量削減／運送事業者の働きやすさ向上
目的	【阻害要因】 帰り荷が担保されず輸配送効率が上がらない →架装・積荷情報連携による空きスペースの可視化及び、荷主マッチングの為の情報連携の実現
期待効果	対荷主：荷台空きスペース活用による輸配送手段拡大 対運送事業者：荷台空きスペース活用による売上向上機会拡大／ドライバー荷役に配慮した混載計画による業務負荷の軽減 商用車OEM：架装・荷台データ仕様や活用方法の標準化による、当該分野における研究開発投資の効率化
アウトプット	架装・積荷情報の標準化／ 情報連携手法（データ連携仕様/データ利活用スキーム/セキュリティ）の確立
取組体制	発着荷主、運送事業者、商用車OEM、架装メーカ

